

日本分析化学会九州支部 2015年度 幹事会

日時：平成27年11月19日(木) 13時00分～15時05分

場所：京セラ鹿児島国分工場 ファインセラミック館2F プレゼンルーム

出席者(敬称略・順不同)：肥後 盛秀(支部長)、竹中 繁織(次期支部長)、財津 慎一(副支部長)、木下 将和(副支部長)、満塩 勝(庶務幹事)、中島 常憲(会計幹事)、松井 利郎(監査)、原田 明(理事)、川上 健次(常任幹事)、河津 博文(常任幹事)、西田 正志(常任幹事)、原田 雅章(常任幹事・分析化学編集委員)、松田 直樹(常任幹事)、松森 信明(常任幹事)、宗 伸明(Anal.Sci.編集委員)、井上 高教(幹事)、井原 敏博(幹事)、今坂 藤太郎(幹事)、片山 佳樹(幹事)、岸川 直哉(幹事)、佐藤 しのぶ(幹事)、末田 慎二(次期幹事)、田中 充(幹事)、戸田 敬(幹事)、二村 和孝(幹事)、山口 政俊(幹事)、山田 淳(幹事・第64年会実行委員長)、横山 拓史(幹事)、吉田 亨次(幹事)

議題(担当者)

1 報告事項

1) 2015年度支部事業経過報告および予定

九州分析化学若手の会第28回春の講演会および第33回夏季セミナー(満塩庶務幹事) 5月16日(土)の九州大学筑紫キャンパスにおける春の講演会と7月24日(金)～25日(土)の熊本県上天草市の亀屋ホテル華椿における夏季セミナーについて、それぞれの世話人である藪下彰啓先生(九大院総理工)と大平慎一先生(熊本大院自然)より提出された資料に基づいて報告がなされた。

夏季セミナーの収支報告書について「収入に春の講演会からの繰越金が記載されていない」と指摘された。後日確認の結果、この繰越金423,710円の数字が誤って春の講演会の会計報告には記載されていたが、夏季セミナーには正しい金額が「開催助成(日本分析化学会九州支部)」と計上されていた。

第56回分析化学講習会(横山実行委員長)

8月5日(水)～7日(金)に九州大学伊都キャンパスと福岡市産学連携交流センターにおいて開催されたことが報告された。例年の内容に加えて、新しい試みとしてX線分析と電子顕微鏡分析を加えた。X線分析については、機器の使用において放射線使用者の登録が必要なため実習ができなかった点が今後の課題である。最終日の液体クロマトグラフィー分析士初段試験では受験者32名全員が合格した。

九州大学学術研究都市推進機構(OPACK)から50万円の協賛金をいただいた。しかし、この支援を受けるためには、九州大学の伊都キャンパスで開催することが条件であり、特定の教員に負担が集中すること、また本講習会を支部の行事として認識して欲しいことが述べられた。来年度からの実施方法について検討を始めることも述べられた。

2015年度九州支部情報交換会・講演会・見学会(肥後支部長)

今回の開催について概略が説明され、副支部長の木下様(京セラ鹿児島国分工場)よりファインセラミック館について簡単に説明がなされた。

機器分析ワークショップ；インハウスセミナー(川上常任幹事)

本年度の第1回が7月7日(火)に三菱重工、第2回が11月13日(金)に京セラ鹿児島国分工場において開催され、その概要とアンケート結果について説明がなされた。1月末～2月頃に第3回を鹿児島大学で開催する計画であることが報告された。

学会共催・後援・協賛（岸川世話人）

8月21日（金）～22日（土）に開催された第28回バイオメディカル分析科学シンポジウム（BMAS2015）の報告がなされた。薬学や生体分析を主題としたもので、長崎では初めての開催であり、参加人数213名、講演件数93件と盛会に終わったことが報告された。

2015年度九州分析化学会賞・奨励賞（宗選考委員長）

5月30日（土）に鹿児島大学において、1名の九州分析化学会賞と3名の奨励賞候補者について、8名の委員で厳正な選考を行い、以下の全員に対して授賞を決定したことが報告された（敬称略）。

九州分析化学会賞：原田明（九大院総理工）

九州分析化学奨励賞：陳思婧（九大院生物資源環境）、玉嶋江莉奈（福岡大院薬）、古賀鈴依子（九大院薬）

第52回化学関連支部合同九州大会（満塩庶務幹事）

6月27日（土）～28日（日）に北九州国際会議場において開催された。本年度は韓国化学会釜山支部と合同で日本分析化学会九州支部設立100周年記念国際シンポジウムが28日に開催されることになっていたが、韓国で中東呼吸器症候群（MERS）が流行したため、延期となった。また、九州分析化学ポスター賞は10名の委員によって選考され、以下の5名の授賞を決定した（敬称略）。

兜坂健太（九大院工）、青木開（九大院総理工）、清弘麻佑（北九州高専専攻）、野崎晃広（熊本大院自然）、奥田浩史（北九州市立大）

2) 2015年度支部会計中間報告（中島会計幹事）

昨年度の第2回常任幹事会から書式が変更になり、本部に提出する報告書の書式であることが説明された。例年よりも予算案の総額が大きいが、これはお金の動きを明確にするために、支部から講演会と講習会に貸与し、その後返還されて実質的に収支が0となるものについても収入と支出として記載しているためであることと、鹿児島で幹事会等を開催するために、旅費交通費が大きくなっているためであることが説明された。

次年度繰越金の備考にある「予算の30%以内を目安」について「予算のどの項目に対する30%なのか」という質問がなされ、予算の総額の30%であるという回答がなされた。

3) 理事会報告（原田理事）

6月の第1回常任幹事会以降について説明がなされた。会員の枠としてシニア会員と学生団体会員の新設、新しい賞として分析化学栄誉賞、Analytical Sciences国際賞等の設立、事務局長の変更、五反田サンハイツの一室の売却、年会の終了の報告がなされた。

事務局長の引継ぎ等で本部事業がうまく機能していないためか、理事会の議事録が送られて来ない。新事務局長と内閣府の立ち入り検査についての説明が求められた。内閣府の立ち入り検査については「公益社団法人で定期的に行われる」と回答がなされた。

4) 本部支部連絡会議（肥後支部長）

第75回分析化学討論会と第64年会の初日の5月23日（土）と9月9日（水）に開催された第1回と第2回についての報告がなされた。年会と討論会の開催順番について、会員が多い関東圏が2回担当し、次回の北海道の次は本部が担当する。また、2019年の討論会は九州支部が担当である。次回の第76回討論会は岐阜薬科大学、第65年会は北海道大学で開

催予定である。また、来年度の支部の予算配分額が決定したこと、慶弔関係を本部に知らせるための協力の要請がなされた。

5) 各誌編集委員会

Analytical Sciences (宗編集委員)

8月9日(日)、9月10日(木)、11月4日(水)に開催された第2回～第4回の議事録についての説明がなされた。インパクトファクター(IF)は昨年度から大きな変化がない。これを上げるための長期戦略としては、論文をしっかりと育てていくことが重要であり、改善の余地がある論文について、編集者や査読委員が著者と原稿をやり取りして、論文の質を上げていくことが報告された。また、査読委員を依頼された場合、コメントの質や量を増やし、却下する場合もその理由を明確に記すようにして欲しいとの要請がなされた。Instruction for authors に、クロスチェックで類似性が高いと判断された投稿論文は査読せずに返却することが明記された。また、英国王立化学会(RSC)ジャーナルと姉妹誌関係を結ぶことを検討している。

第4回会議の開催場所が二カ所ある件について質問がなされ、テレビ会議により二会場で行われたことが説明された。「IFを上げるためには良いレビューを多く掲載し、引用されることが重用である」と意見が出された。

分析化学 (原田編集委員)

3月6日(金)と9月10日(木)に開催された第1回と第2回の議事録についての説明がなされ、投稿数を上げるための協力のお願いがなされた。

ぶんせき (満塩庶務幹事)

7月17日(金)に開催された第2回について、編集委員の高椋利幸先生(佐賀大院工)より提出された資料に基づいて説明がなされ、電子化について議論が進んでいることが報告された。

6) その他 (肥後支部長)

山口政俊先生(福岡大薬)の福岡大学学長就任の報告がなされた。

今回の幹事会・講演会・見学会の案内が、10月26日(月)発刊の読売新聞に掲載されたことの報告がなされ、広告のお礼が述べられた。

2 審議事項

1) 2016年度支部事業計画案 (肥後支部長)

第53回化学関連支部合同九州大会、九州分析化学若手の会第29回春の講演会、第34回夏季セミナー、第57回分析化学講習会について概要が説明され、続いて世話人より詳細が説明された。また、日本分析化学会九州支部創立60周年記念会の実施についての提案があり、了承された。

第53回化学関連支部合同九州大会 (竹中代表世話人)

7月2日(土)に開催予定であり、北九州国際会議場および懇親会会場は予約済みであること、依頼公演は戸田敬先生(熊本大院自然)、特別講演は杉本直己先生(甲南大先端生命)の予定であり、両先生の内諾も得ていることが報告された。また、他の共催学会への依頼公演の候補者選出も依頼済みである。

分析化学若手の会 第29回春の講演会 (吉田世話人)

5月14日(土)に、福岡大学の中央図書館多目的ホールにて開催される予定であり、4件の講演が予定され、3名の講師と1つの企業は内諾済が得られていることが報告された。

第34回分析化学若手の会夏季セミナー（末田世話人）

7月29日(金)～30日(土)に日田市の天ヶ瀬温泉みるきーすばサンビレッジでの開催であり、参加人数は150名を想定していることが報告された。

夏季セミナーの開催時期について、「多くの大学の学期末と重なるため、日程をずらすことができないか」という意見が出された。これに対して「開催期日は他学会の夏季セミナー等と調整を行って決定しており、大きく変更することは非常に難しいことと、来年度はこのスケジュールで開催し、再来年度の日程調整時に本件を考慮に入れて調整を試みる」と回答がなされた。また「通常世話人から提出される夏季セミナーの会計を支部会計幹事が監査するため、世話人と会計の両方を末田先生が担当することはできるのか」という質問がご本人よりなされた。これに対して「若手の会の会計を他の先生にすることで解決できるのではないか」との案が出され、承認された。

2) 2016年度支部予算案（中島会計幹事）

基本的に例年通りであるが、収入金額に第64年会収益金の50%を見込んでいることが説明された。本年度は執行部が鹿児島にあるため旅費による支出が大きいと、来年度は北九州に移るため、昨年度と同等の旅費と考えている旨が説明された。また、収入として見込んでいる64年会収益金の支部への還元について、50%となるかどうかはまだ確定ではないことも説明された。

3) 支部役員の変更（満塩庶務幹事）

これまでの変更の確認後に、中村博先生の参与への新任と、末田慎二先生の幹事への新任について、それぞれの推薦者である今坂先生および竹中先生より説明がなされ、承認された。

4) 2016年度支部・本部関係役員（肥後支部長）

次年度支部・本部関係役員について原案の説明がなされた。理事、代議員、編集委員について、内諾を得ていることが報告され、承認された。また、2017年度支部長として、戸田敬先生(熊本大学自然)の内諾を得ていることも報告された。監査として、肥後先生と木下様が引き受けることを説明し、承認された。また、常任幹事の13名については、12月半ばまでに決定し、本部へ報告する。

5) その他

日本分析化学会九州支部創立60周年記念会（竹中次期支部長）

2016年11月18日(金)と19日(土)の開催であり、初日の午前中に支部長経験者会議と幹事会、午後に記念会を開催し、翌日に見学会あるいはエクスカージョンを予定していること、会場として北九州国際会議場、懇親会会場としてステーションホテル小倉を予約していることが説明された。

以上